

無足場工法による 外裝修繕工事

東京外装メンテナンス協同組合 (TEC)
理事 茂木 健一

vol.
2

固定観念を捨て、作業経験ゼロからスタート

ブランコ作業には自信があるが……

前号で、われわれ東京外装メンテナンス組合が外装清掃から修繕工事に挑戦するようになったきっかけをお伝えしました。

しかしその後、修繕工事をするようになったものの……、前途多難な困難が待ち受けておりました。

それは、当組合の各社各々、工事施工の作業経験がないことでした。一般的に、シール工事をするなら防水工事業者が施工し、塗装をするなら塗装工事業者、タイル工事をするならタイル屋さんが行います。われわれは建物の外側を無足場で行うブランコ作業のスペシャリストであり、窓清掃や外壁清掃には一日の長がありますが、補修工事にはまったくの無縁でした。

逆に工事をしてもらうなら、上記の業者さんにブランコ作業をしてもらえばとの発想になりますが、業者さんはブランコ作業ができません。



(写真1) 仮設足場ネット付

施主の強い要望により、挑戦!

通常、このような工事をする場合は、仮設足場を設置し、さらに足場外周にネットも設置します。それにより視覚的恐怖感が軽減されて(ネットで覆うと高所に対する恐怖感が薄れます)、平場で作業するときと同じような状態で工事が施工できるのです(写真1)。

本件の工事も、当初、防水工事業者とタイル屋さんにブランコ作業での工事を依頼しましたが、お断りされました。建設業界の通例上、このような補修工事をブランコ作業で行うという概念がなく、平場と同じ状態で施工することが品質上も維持されるからです(無足場では足場の安定性が保持できない)。

このような状況となり、当初はこの仕事をお断りしようと思ったのですが、施主のほうから「ぜひともブランコ作業で」との要望があり、取り組むことになりました。

なぜ施主はブランコ作業にこだわったのか?

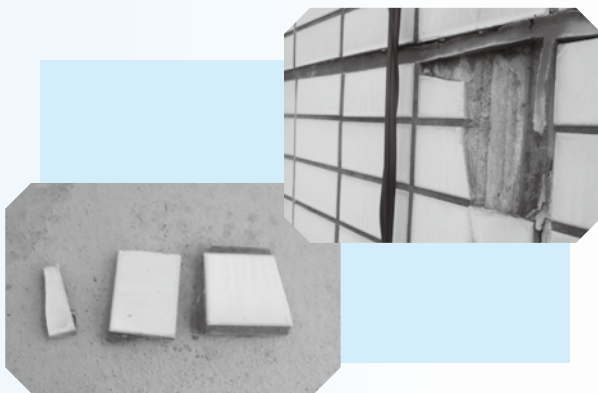
本件には次のような背景がありました。今回の施工面の一面が隣地との間が狭く(写真2)、かつ隣地との関係性が芳しくないことから、仮設足場設置等での大掛かりな工事は回避したい意向であったこと。また、予算面で厳しく、予算内で納めるため、品質は最高でなくてもよいから、タイルの剥落回避(写真3)と漏水防止ができれば行ってほしい、多少見栄えは良くなくても無事故で安全に進めてほしいとのことでした。

以上のような背景のもと、承諾を得て、本件を無足場工法のブランコ作業で取り組むことになったわけです。

(写真2) 隣地との狭さ



(写真3) タイルの剥落回避が必要な、要補修箇所



社内にはいた、心強い人材

しかし、専門業者には断られ、工事施工の経験のないわれわれが、どのように工事を進めるかが最大の難関でした。

当社で本件についての話し合いをしていたとき、社員から「本格的な工事はしたことはないが、前職でサッシ屋さんに勤務していたときに窓まわりのシーンを打設したことがある」「屋根工事が主たる業務の工務店にいたときにタイルの張り替えをしたことがある」という声があがり、計2名の者が工事に関わっていたことがわかりました。

この2名を主に本件の工事を進めようと決め、施主には事情を説明し、「実際の現場で試行錯誤しながらの施工となるが、確実に納期には引き渡す」ことで承諾を得て、修繕工事を受託することとなりました。

後々わかったことですが、本件施工者である社員たちが、これまで前職での実績を会社側へ話していなかったのは、施工に対する保証が持てなかったこと、工事に対する固定概念があった（ブランコ作業では補修工事はできないと思っていた）こと、今後、ガラス外装清掃の部門から外れて工事部門に配置転換がされるのが怖くて、正直に話せなかったことが理由でした。

(写真4) 社員との話し合いの様子



私は、将来の当業界の成長と発展にもこの事業が大変意義があるものであり、責任はすべて会社で持つことを社員たちに話し、彼らに快諾してもらい、本件を進めました（写真4）。

今回の工事受託に際しては、施主であるオーナー側の多大な理解と協力を得ることで進められたわけですが、「足場を組まないとい工事ができない」という固定概念を捨て、お客様の要望に応えようと新しい挑戦に取り組み、あきらめず思考し行動することがポイントであったと思慮します。



今回は、ブランコ作業で施工が可能になった技術的な背景と要因をお伝えしたいと思います。しばらくお付き合いのほどを！

外装メンテはプロにご相談ください!

東京外装メンテナンス協同組合 (TEC)

●<http://garakuri.com/>

●TEL.03-3252-0363